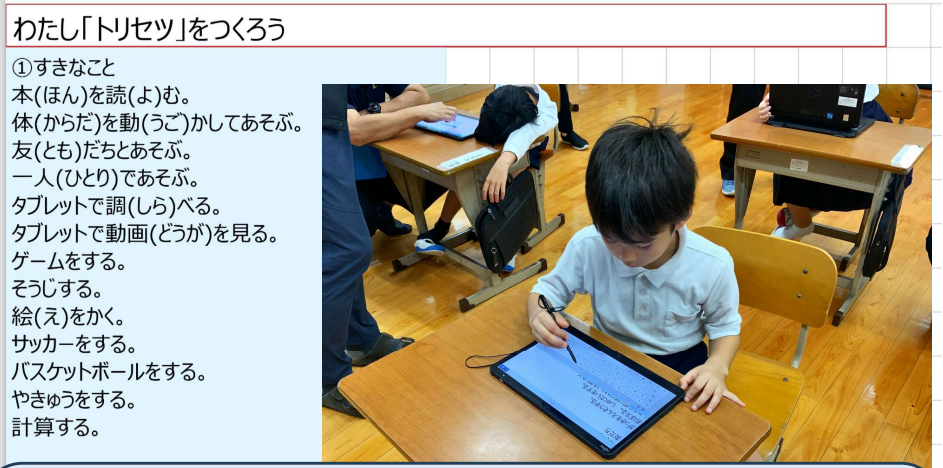
研究通信

氷川町立竜北西部小学校
令和６年１１月１３日（水）
No.９　研究主任　俵

中研 研究授業・研究会より

そよかぜⅡ－１自立活動「わたし『トリセツ』をつくろう」



ICTの効果的な活用

児童の実態に合わせて、選択肢から消去していく。
低学年は、記入するのに時間がかかってしまう。
高学年であれば、自分で記入してもいい。

児童の見取り

児童の進捗状況を見取る。
児童と同じ目線で、問いかけながら。

聴き合いタイム

１人ずつ発表する形で、友達の考えを聞くようにしている。
→特別支援学級では、複線型の授業は難しい。

みなさんの学び（ホワイトボードより）

少人数なので、作業を進めながらどんどん関わりあっていくようにしていいと思う。

入力ではなく、いらないものを消す作業でできて児童にはやりやすかったと思う。

勢い余ってテーマの部分を消してしまうと、何について項目を残していくのか忘れてしまう場面もあったので、テーマは児童が消せないような表示の仕方があれば良いなと思った。（ワークシートの工夫）

発表の時に、タブレットをの画面を見ている児童もいたので、発表の時には体を向けて聞く指導が必要だと思う。（やってほしい教師の心がけ１７）

事前に項目を作ってあったので、テーマに当てはまらないものをテキパキと消すことができていた。教師側も問いかけがしやすかった。

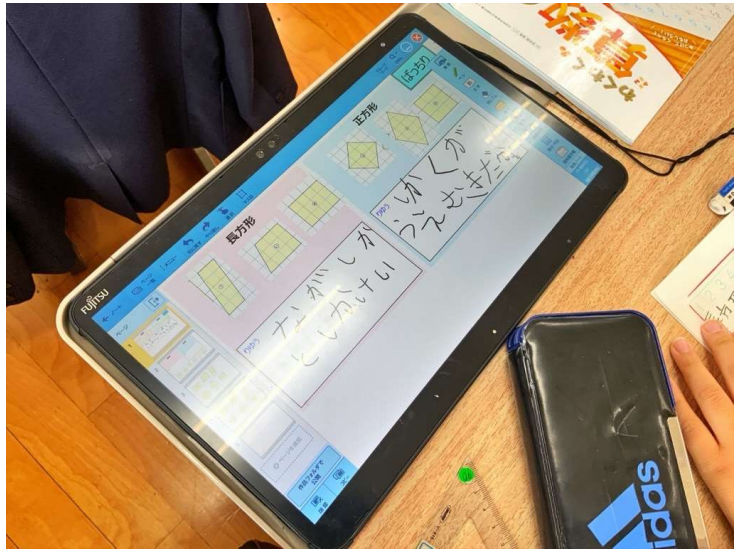
【Formsより自評】
　時間的に後半の聞き合いのところは難しいだろうと思いながらも、構想案としては成立するように書いていました。児童の実態から、本時で「ひ」、次時で「か」「わ」だろうと思いつつも、１コマに何とか収めたいと思って授業しましたが、無理でした。質問項目を、観点に投げ分けていくやり方を模索しましたが、私の技量的に難しかったので今回はできませんでした。

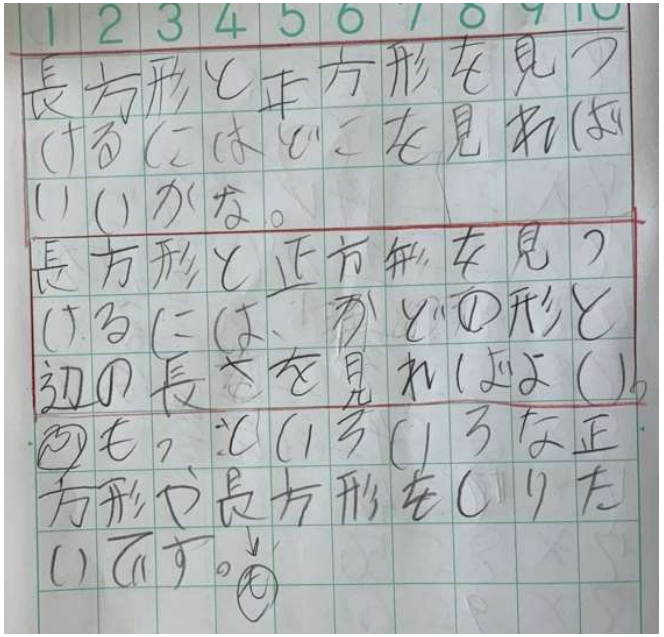
研究通信

氷川町立竜北西部小学校
令和６年１１月１３日（水）
No.９　研究主任　俵

中研 研究授業・研究会より

２年算数「三角形と四角形」





ICTの活用

発表ノートが色分けされていて、低学年でもわかりやすいものとなっていた。

学習が日常につながる

学習したことをもとに、長方形や正方形を積極的に見つける姿が見られた。

「じ・も・と」のふり返りの視点

「も」について書いている人が多く、次時への意欲を感じる。

みなさんの学び（ホワイトボードより）

分類するという定義や理由をもとに考えるものを聴き合いタイムで、児童どうしで確認させるのは、とても有意義な時間になると感じた。

前時までの大切なことを掲示してあるので、それを利用しながら考えを進めることができていた。

最初の時点で何を検討させるかの絞り込みが必要になるのではないかと思った。（見通しを持たせるための手立てが必要）

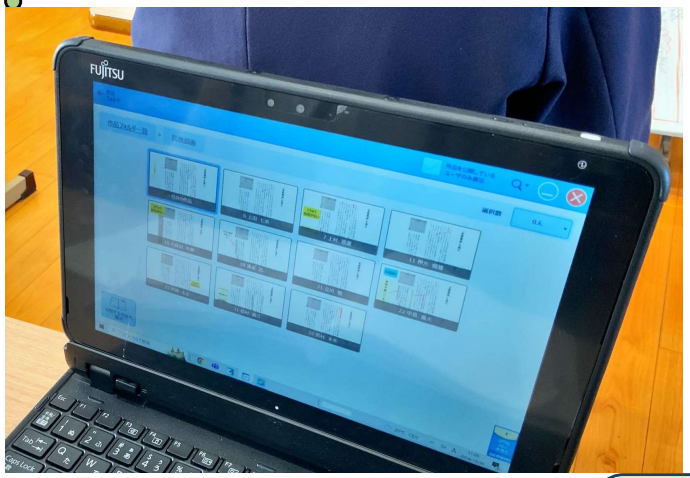
三角定規を当てる場面で図が動いてしまったり、反射してうまく認識できていない子が数名いたので、紙の図があってもよかったかもしれない。
（児童が選択できる教具・ワークシートの準備）（１人学びの手立て）

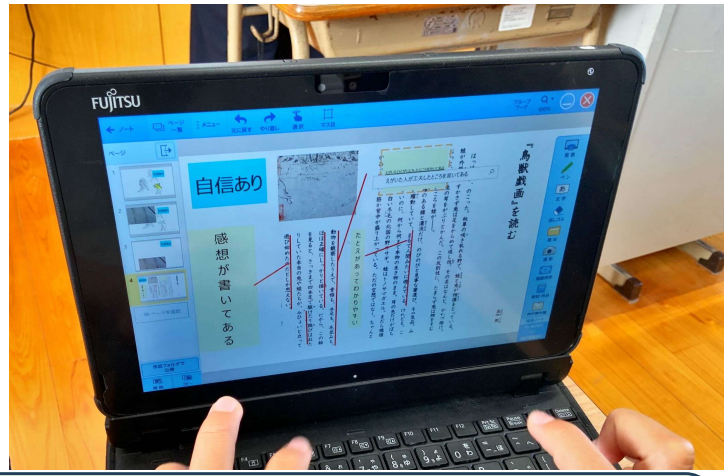
研究通信

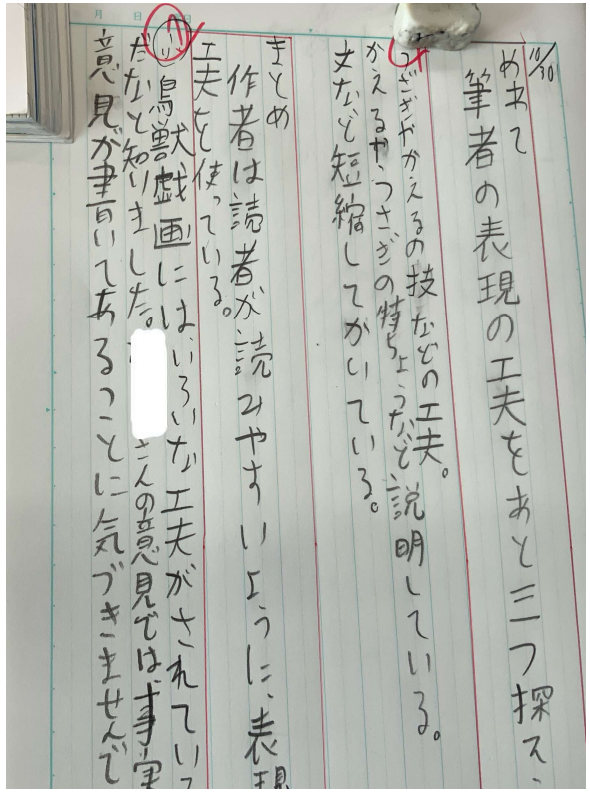
氷川町立竜北西部小学校
令和６年１１月１３日（水）
No.９　研究主任　俵

中研 研究授業・研究会より

６年国語「『鳥獣戯画』を読む」







「聴き合いタイム」

「意思表示カード」を発表ノートに示し、「みんなの作品」を活用している。

ICTの活用

注目させたい教科書の本文を切り取って、発表ノートに貼り付ける。

振り返りの視点「じ・も・と」

「じ」でがんばったことだけでなく、学んだことも書いている。高学年では、「と」を名前を入れて具体的に書けるとよい。

「やってほしい教師の心がけ１７」

めあてとまとめを赤でか囲む。
めあてを書いたら、みんなで一斉に読む。

みなさんの学び（ホワイトボードより）

机間巡視をする中で先生が子どもの書いた工夫に返しをしながら〇をしていたのがよかった。

タブレットと教科書ノートと使い分ける状況整えられている。

どこに注目するのか、もう少し見通しを持たせるとよい。「表現の工夫のいいとことは？」「どれも誰を意識している？」と問い返して、まとめに進められるとよかった。

一人学びが始まってある程度過ぎたところで考えがない子は動き出す必要がある。意思表示や公開も早くして、みんなで共有できるようにしていく。ほぼヒントがないところで工夫を探すというのは難しい子もいるだろう。（見通しを持たせる、１人学びの手立てが必要）